

令和4年度東温市総合教育会議 会議録

れているものと受け止めております。

新型コロナウイルスも5月8日には5類への移行も政府の方で決定されているようですが、本市におきましても引き続き油断なく市民の皆様、企業の皆様を守るためにも感染回避行動の徹底とワクチンの接種等につきましては推奨を強くしていきたいと考えております。

さて、この総合教育会議は、教育委員会と市長が地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、相互に連携して教育行政を推進していくために開催しております。この会議を通じて、皆様とより深く意見交換を行い、教育委員会と市長が一層連携して教育行政に当たりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

本日は、愛媛大学教職大学院教育実践高度化専攻 教授 城戸 茂（きど しげる）先生をお招きして、不登校対策について、ご講演いただき、その後、城戸先生を交えて、意見交換を行いたいと考えております。

不登校については年々増加傾向にありまして、長引く新型コロナウイルス感染症拡大も原因の一つであると思われますが、家庭環境、社会情勢など様々な背景もあると考えており、ゴールの見えない課題であると思っています。

しかしながら、魅力ある学校づくりに取り組むという目標を決めて進むことによって、不登校の児童生徒数の減少につなげることが、東温市教育の使命と考えております。教育委員の皆さんに御意見を賜りながら不登校対策について進めていきたいと思います。ぜひ忌憚のない御意見をいただきますようご協力のほどお願い申し上げまして開会のご挨拶といたします。

本日は、よろしくお願いいたします。

（加藤市長）

それでは早速協議に入りたいと思います。

本日の協議題は「不登校対策について」でございます。はじめに事務局から「東温市の不登校児童生徒の現状と課題について」説明をお願いします。

（東山指導主事）

東温市の不登校児童生徒の現状と課題について説明する。

（加藤市長）

続いて、愛媛大学教職大学院教育実践高度化専攻 教授 城戸茂先生より先ほどの東温市の現状を踏まえて、県、国の動向などを交えて「サイクルで進める魅力ある学校づくり」と題してご講演いただき、その後、意見交換に移りたいと思います。

まずは、城戸先生のご紹介を事務局からお願いします。

（渡部事務局長）

講師紹介

（加藤市長）

それでは城戸先生よろしくお願いします。

(城戸教授)

講題「サイクルで進める魅力ある学校づくり」

(加藤市長)

ありがとうございました。

本来ならここで、ご意見やご質問をいただきたいところではありますが、次の意見交換には、城戸先生も加わっていただきますので、そこでお伺いすることといたします。

それでは、意見交換に移ります。

先ほどの事務局の説明及び東温市が取り組んでおります「魅力ある学校づくり調査研究事業」を基に「サイクルで進める魅力ある学校づくり」と題して講演がありました。不登校の「未然防止」、「初期対応」、「自立支援」のうち、本年度は特に「未然防止」に軸足を置いた取組を行っておりますが「未然防止」についての必要な視点、考え方など、幅広く委員の皆さんからご意見をお聞かせいただきたいと存じます。順番にご指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、本田委員からお願いします。

(本田委員)

魅力的な学校として重要なことは、学ぶ楽しさが感じられる。人間関係が心地よい状況になることだと思っております。体験から学んだり、関わりから学ぶ機会を大切にしたいと思えます。体験学習は自然文化と向き合って興味関心を持ちますし、課題を解決する過程で発見の喜びを感じ、バランスよく取り組むこと。学びの意欲となる取組をお願いしたいと思えます。

人間関係を築くために小集団学習やグループ学習、異学年活動など多様な学びの場の設定や学級会活動、生徒会活動といった自主的な活動も充実していただければありがたいなと思えます。

体験活動や家族と関わる活動については、小学校・中学校はもちろんです、できれば早い時期にそういう場が持てれば良いと思えます。そういう意味では、東温市ではびよびよクラブ、幼稚園開放、親子遊びの広場など行っておりまして大変有効ではないかと思えます。

また、現状では学校だけでは体験活動は難しいのではないかと思います。昔は地域行事や近所の生活の中で社会経験や生活の知恵を学んできたと思えますが、薄れてきているのではないかと思います。東温市では、わんぱく広場、ジュニア体験塾、放課後わくわく教室など活動を行っていただいておりますが、そのような活動の更なる拡充・充実を願っております。また、コミュニティ・スクールに全小・中学校で取り組んでいただいておりますが、その機能を生かして地域ぐるみで子どもを育てる体制を確立することも必要ではないかと思えます。

中学校でどうしても不登校が増えている。もちろん例は小学校にあるとは思いますが、小中のギャップを除いていく取組はどうしても必要であると思えます。小学生が中学校の授業や部活動に参加する機会をもっと増やして小学校の段階でもっと考えておくことが必要ではないかと思えます。

部活動の地域移行が進められていると思いますが、その際には中学生だけではなく例えば小学校5、6年生も参加できるようにできれば違ってくるのかなと思います。

小・中学校の人事交流によって教師と子どもたちの人間関係が繋がるような仕組みにもできないかなと思ったりもしています。

また、小・中学校で日常的な公開授業や出前講座のようなものを行うことができないかなと思っています。知った先生がいるということが子どもにとって安心感に繋がるのではないかなと思います。できる範囲で東温市独自の小中一貫教育について検討してもよいのではないかなと思います。私の場合は、精選、精選で学校から行事や児童生徒の自主的な活動が削られてしまいました。ゆとり教育が学力低下を招いたと批判されていますが、考える力、生きる力、豊かな人間性を培うことを内容とした考え方は間違いではなかったと思いますのでこれからの教育においてもその考え方は大切にしてほしいと思います。以上です。

(加藤市長)

ありがとうございました。続きまして水岡委員お願いします。

(水岡委員)

生徒の不登校が中学校で増えていることがよく分かりました。私の周りにも不登校で悩んでいる保護者がいます。一人ひとり不登校の内容が違います。現在も学校には来ているものの不登校予備軍の生徒もいると思います。特に中学生になると小学校では不登校ではなかったけれども中学生から不登校になる生徒もいて、まずは保護者が子どもの変化をキャッチして担任若しくは信頼できる先生に相談することが大事だと思います。

コロナ禍の影響もあって保護者も学校へ行く機会が少なくなり、先生に相談し辛い保護者もいるかもしれません。未然防止には生徒はもちろん、悩んでいる保護者も多いと思いますので、そのような相談を関係部署へ情報を発信して全員で共通認識することが必要だと思います。調査の中で、不登校の要因が無気力とありましたが、その中には精神的な病気の子どもがいるかもしれません。自分がどうしたらいいのか、気力がないとか、持続心が足らなくなっている生徒もいると思います。朝起きられないとか体調が思わしくない子どももいます。朝起きられない子どもの中には、起立性調節障害で、それが分からず、親が無理に起こして我が子は怠けているのではないかと悩んでいるケースもありました。また、中学生になって勉強が難しくなってくるので、つい母親がうるさく言ってしまっていて学校へ行くのが嫌になって不登校になったという例もあります。

保護者が子どもに対する声かけ一つで子どもは変化します。保護者から学校に相談があったらすぐに相談に乗ってほしい。保護者からも不安な気持ちを取り除いてほしいと思います。不登校の一つの原因に家庭環境（親子関係）もあると思いますので、「子どもが帰りたい家」が大事だと思います。

学校のアンケート調査の中に「家庭は楽しいか」という項目を入れたらどうかと思いました。友だち関係で悩んでいても誰にも相談できず、親にも言えず、そのまま学校に行けなくなります。コミュニケーションの取り方が分からない子どももいます。少人数の小学校から中学生になり、クラスによって友だちと離れてしまい、友達ができないと

きは、「小学校の時に誰と仲が良かったか」、「誰と同じクラスになりたいか」などの調査も良いのではないかと思います。

(加藤市長)

ありがとうございました。続いて大西委員お願いします。

(大西委員)

意見を2点述べさせていただきます。

1点目は、先生自身が元気に楽しく学校へ行けるような環境を作ること。具体的には、児童生徒の指導以外の書類作成等の話をよく聞きますが、その時間を減らして先生が疲れないようにする。

2点目は、児童生徒が学校へ行って勉強がしたくなるような授業をする。一つの事例として灘高校で東大合格者数日本一を成し遂げた先生がいるが、この先生は、国語の授業では文庫本の「銀の匙」1冊を中学3年間かけて読み込むということをしたそうです。ある日一つの言葉で授業が脱線したときに生徒から「先生、このペースだと200ページ終わらないじゃないですか。」と質問されたそうです。すると先生は教室を見渡した後、静かな口調で「スピードが大事なんじゃない。すぐに役に立つことはすぐに役立たなくなります。何でもいい、少しでも興味を持ったことから気持ちを起こして行って、どんどん自分で掘り下げて行ってほしい。そうやって自分で見つけたことは君たちの一生の財産になります。そのことはいつか分かります。」と言われたそうです。

私も急がず、みんなが学ぶことに興味を持つような授業が大切だと思います。東温市でも授業参観でそのような学ぶことに興味を持たせるような理科や国語の先生が何人もおられました。そういった先生の授業は新任の先生にも見てもらって学んでもらうことも大事だと思います。また、ワークショップ形式の授業を増やすことも児童生徒の理解を高め、良好な人間関係づくりに役に立つと思います。授業参観したワークショップ形式の授業は活気があってよく児童生徒が理解できているなど感じました。以上です。

(加藤市長)

ありがとうございました。続いて大野委員お願いします。

(大野委員)

東温市で取り組んでおられる魅力ある学校づくり調査研究事業の中に「居場所づくり」、「絆づくり」があったと思いますが、私も小学校で長い間学級担任として、また何年間も管理職として子どもたちや先生たちの様子も見てきましたが、やはり一番不登校にならないクラスというのは、学校に行ったら子どもに役割がある。役割があるクラスや学年が作られていたら子どもは必ず行きたくなります。ところが、学校に行っても勉強も分からず何の役割もないと行きたくなくなります。何もかもが楽しくてたまらないような授業ばかりではなく、地道に努力しなければならない授業もあり、静かに読まなくてはいけない授業もあります。例えば、授業中に勉強が苦手でなかなか分からない子どもがいたら、その子は肩身の狭い思いをするのが普通ですが、優れた学級経営をしている先生のクラスに言えることは、勉強が苦手な子どもにも授業中にちゃんと役割を与えて

います。例えば分からない児童がいつまでも分からないと言えるようにする係(雰囲気)を作っておくと他の分からない子どもにも分かるようになるし、優秀な児童はより丁寧に説明しようとしたり、学んだことを絵にして教室の後ろに張り出してくれるようになるなど効果生まれる。誰々のお陰で授業が分かるようになってありがたかったと言われるような児童に役割をつくと居場所ができる。そのような居場所作りを授業に組み込んでおくのとどのような内容の時も絆づくりを深めていくことができる。そのような授業を行うためには、校長や学年主任級の先生方が幼稚園へ出向き園児と関わる場をつくり、幼稚園から小学校へ交流に来たときは小学校の子どもたちと関わり合うような授業を作ってなじませる中で子どもの特徴を把握しておくことが大事ではないかと思います。

魅力ある学校づくりを進めていくと十分不登校の対応になると思われるが、それに加えて先ほどの居場所作りと絆づくりの延長線上にあると思われるが、主体的に取り組む学校・学級、もう一つははじめをする心の心情は非常に感情的になっていることが多いので、道徳的な判断力を育成する場が非常に大事であると思っている、

(加藤市長)

ありがとうございました。今までのご意見等を受けて専門的な見地から城戸先生から助言をお願いします。

(城戸教授)

大西委員、大野委員さんは、授業づくりや集団づくり、学級経営などについてお話していただいたかと思いますが、このあたりはしっかりと研修を重ねていくその際に子どもたちの意識をチェックしながら進めていく訳ですので、学校が楽しいとか授業が良く分かったとかというデータを基にしっかりと振り返りをしながら魅力ある学校づくりを進めていくことが大事なのかなと思います。指定を受けられたことを契機にデータを基にして

自身の取組を振り返ることが大事なのかなと思いました。

本田委員さんと水岡委員さんについては、学校教育プラスアルファのところになると思います。本田委員さんの言われた体験活動については、学校だけでは限界があります。東温市はコミュニティ・スクールに力を入れておられますので、社会教育、家庭教育が接点となる素晴らしいツールを持っておられるので、うまく機能させながら進めていくことが大事なのかなと思います。その中に水岡委員さんが言われた家庭に関する質問を加えることが魅力的なポイントかなと思います。それを基にコミュニティ・スクールで学校教育を支える部分についても子どもたちから調査したら「家庭は楽しい」という結果が出ましたという風に報告するとコミュニティ・スクールのメンバーの方は前向きな姿勢になってくると思います。

本日、行政側には学校教育だけではなく生涯学習関係の方もいらっしゃいます。福祉の領域も含めて総合的に進めていくことが大事かなと思いました。

(加藤市長)

ありがとうございました。今のご助言を踏まえまして教育長からお願いします。

(八木教育長)

私からは、教育行政としてどういう方向へ行くべきかということをお話しさせていただきます。

東山指導主事が説明しました現状と課題の資料の水色のグラフを見ていただいたら分かると思いますが、昨年10月に校長先生方と面接をした際に全員の校長先生が学校の一番の課題は不登校であると言われたので、調べてみるとこのグラフのようになっておりました。このグラフを増加率でみると平成27年度から28年度にかけて増加率が高く令和元年度から2年度にかけて増えている。最初の27年度28年度の増加の原因は、教員の働き方改革がクローズアップされだした頃で、元年度から2年度にかけてはコロナであります。

本市の子どもたちの特徴として、国や県に比べて住んでいる地域に参加している子どもがものすごく多いことと、地域や社会のことをよく考えている子どもが多い。学級活動における話し合いを活かして自分が努力すべきことに取り組んでいるという子どもが小学校で9割超えて、中学校が8割を超えている。これは国・県よりはるかに優れている。この本市の子どもたちにとって生徒会活動や地域への活動への参加が令和元年度から2年度にかけて失われたのが大きいかなと思います。

そのため教育行政として不登校対策を何とかしたいと思い城戸先生に相談したところエビデンスのある取組があると言われて魅力ある学校づくりに取り組んでいます。東温市としては2本立てで行うこととして、もう一つは、地域とともにある学校づくりでコミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体化を目指します。

不登校の原因の中で勉強が分からないということもありましたので、生涯学習課の方で来年度へ向けて未来塾を作って子どもたちの学習支援を最初は川内地区で始めて少しずつ増やしていこうと思っております。

このようなことを委員さんの意見も踏まえてこれからも進めていきたいと考えています。

(加藤市長)

ありがとうございました。「未然防止」についてのご意見を頂戴して、教育長にまとめをしていただきました。

それでは続いて2番目の今後に繋げていくためにも「初期対応」、「自立支援」の大きな役割があると思います。これに関しましても必要な視点、考え方等を踏まえまして委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。本田委員さんからお願いします。

(本田委員)

初期対応についてですが、教師の資質を磨くということも大切ですが、変化に気づく体制づくりも必要ではないかと思います。小規模校でしたら教職員が全児童を見る体制ができていますが、大規模校ではどうしても見落としも発生するでしょうし、担任と合わない子どもも少なからずいるのではないかと。日頃から組織的な活動を行うことが大切であると思います。例えばTTの授業実施、学年活動、課外活動などの充実が考えられると思います。加配がなくてもTTの授業は実践することができますので、ぜひ取り組

んで頂きたいと思います。授業を分担することによって先生方の負担も少なくなってきましたし、授業事態の質も上がることも考えられます。

初期の対応を誤るとどうしても長引いてしまいますので、もちろん担任が中心で関わらないといけないと思いますが、先生方も組織として、また、スクールカウンセラーなどの専門的な方にも関わっていただくことも必要であると思います。学校にはハートなんでも相談員も配置されておりますし、市にも相談員配置され成果は上がっています。ただ、不登校に陥る子どもたちは面談とか電話ではなかなか心の内を出せない。そういう子もいるのではないかと思います。

誰でも間接的に相談できる。他愛もないことを話せるインターネットを活用する場も必要ではないかと思います。

自立支援については、保健室登校や関係機関に行って統計上不登校になっている子どもに、まず取り組んでいくべきではないかと思います。学級復帰も期待できますので、最大限の努力をここですべきだと思います。子どもの状態に応じてプレッシャーをかけないように配慮しながらスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関と協力しながら積極的に関わって、心をほぐしていくことも必要であると思います。

行政についても、東温市は「適応指導教室ひだまり」を開設して成果も上がっていると思いますが、将来的に余裕ができれば指導員が学校や家庭へも派遣できるような体制ができるとありがたいなと思います。

ほとんど学校に行けてない子どもには、学校にはタブレットなどもありますので、活用して繋がりを切らないように学習保証ができるように関わっていかないといいと思いますが、学校だけで改善することは困難になるのではないかと思いますので、行政や関係機関が積極的に関わっていくことが必要だと思います。

社会との接点がある多様な場所への取り次ぎとそこへ参加するための支援、精神科医等の専門家が家庭支援に入れるような体制等もあっていいのかなと思います。今は焦らず長期的な支援体制を構築する時代になるだろうと思います。日頃から学校や関係機関が連携を密にしておく必要があると思います。

(加藤市長)

ありがとうございました。続きまして水岡委員お願いします。

(水岡委員)

不登校の子どもの中には生きづらいとか、人と同じことができない子どももいます。

学校が関係機関や病院を紹介するシステムの構築はあると思いますが、生徒だけではなく不安な保護者にも発信してもらいたいと思います。不登校の子どもはいつも不安な気持ちでいます。専門家にゆっくり聞いてもらえる場を紹介できればと思います。

引きこもっている子どもの中には勉強はしたいけれども学校自体へ行けない子どももいますので、オンライン授業なども進めてもらえればと思います。中学生までは義務教育ですので子どもたちの教育はどんな形でも受けさせたいと思います。

東温市には「ひだまり」があります。「ひだまり」に行くことによって社会と繋がっています。保護者からの相談を受けることもできます。少しずつ学校へ足を向けている子どももいます。中学校までは「ひだまり」に行けますが、それ以降は行けません。中学

校卒業後、生徒一人ひとりが生きづらさを少しでも解消して社会生活ができればいいなと思います。

(加藤市長)

ありがとうございました。次に大西委員お願いします。

(大西委員)

私は不登校の児童生徒を指導した経験がありませんので、調べた中で明石市教育委員会の早期対応マニュアルを紹介したいと思います。

これは、欠席1日目のときに担当教師が電話連絡をして聞いたこと伝えたことポイントをチェックリストで記録できるようになっています。2日目の欠席になると、教師が家庭訪問して家庭を見たときの状況を保護者や本人から聞いたこと伝えてことなどをチェックリストで記録する。3日目の連続した欠席になると欠席状況を管理職に報告して早期の対応として、翌日から登校できそうな場合の検討と翌日も登校できない場合の検討をされる。以上のような対応をチェックリストによって子どもの表情や様子、家庭の様子を簡単に作れるような帳票が作られていて、一人ひとりの不登校の原因と思われる事項が病院のカルテのように保管されるシステムができていて原因が絞り込めて見つけやすいように感じました。どうしても登校できない児童生徒には別室指導、保健室登校、校内適応教室の活用、児童生徒支援課との連携、関係機関との連携、野外炊飯等の体験活動を行うサテライト教室の活用、フリス쿨の民間施設を活用するステップを紹介されています。明石市はこれがうまくいっているかどうかは分かりませんが、いいなと思います紹介させていただきました。

(加藤市長)

ありがとうございました。大野委員お願いします。

(大野委員)

不登校は1日目から始まるので、1日目の対応をどうするのか、1週間後の対応をどうするかということをこれまで他の委員さんからの話を大切にしなければならないと思います。1日、2日休むことは風邪などではありますが、1週間以上休みだすとこれが長引くことが非常に多いと思います。教室に入れないけど保健室、相談室、特別支援教室なら入れる。そのような入れる場所がある場合は無理強いしてすぐに教室に行かせるより、そのような教室で気持ちを聞いたり、その子ができることをさせることが大事であると思います。

それと家庭のことを掌握していないために長引くこともありますので、家庭での様子などを子育て支援室や社会福祉関係の方に問い合わせる状況を正確に把握する必要があります。場合によってはヤングケアラーのような状況で母親が精神的な病を持ち、父親は朝早く仕事に行って、母親の面倒をみるためなかなか登校できなくなっているような状況もあるので、そのような家庭環境の情報をなるべく多く得ることが初期対応では大事ではないかと思っています。

(加藤市長)

ありがとうございました。それでは今のご意見を受けまして城戸先生の方からお願いします。

(城戸教授)

4名の委員の方々から素晴らしいお話をいただきました。

大西委員さんから言われた不登校傾向にある子どもに対するマニュアル化を市町ごとに進めていくと思いますが、東温市は魅力ある学校づくり調査研究事業でいろいろな手法を学ばれているんじゃないかと思います。その中の一つが、小学校・中学校の連携という視点ですが、中学生になって急に問題行動が起こっていく、不登校もその一つで小学校6年と中学校1年で色々な数字が跳ね上がります。他の調査結果を見ても結構小中間で段差があり中1ギャップなどと言われますが、この要因は全て中学校にあるわけではなく、発達段階において中学生になると思春期になりますので、小学校までは表に出ていなかったものが出てくるようになる。そういった要因がとても大きい訳で、中学生になって不登校になった子は小学校できちんと登校できていたのかというのを調査した結果があります。中1不登校調査と言いますが、中学校1年生で不登校になった子が小学校6年生のときに何日くらい学校に行けてなかったのか、5年生のとき、4年生のときと過去3年間にわたって調べている。そのときに欠席日数だけでは不登校には該当しないケースがあるため遅刻や早退を欠席日数0.5に換算して数値を出していくと30日を超えた子どもがみなし不登校に分類している。その結果小学校4年、5年生のときにみなし不登校に該当する子が中学1年生で不登校になった子のうち約半分を占めていたことが分かった。つまりその子の心配な根っこは小学校のときにあるということが分かります。そのため、中学校では小学校の情報をしっかり把握して小学校から出欠の情報はもちろん遅刻や早退等のデータを中学校がしっかりバトンを受けてしっかり対応していくことを今年からされておられる。それが今年の中学校1年生の不登校が例年に比べて少し減少傾向にある効果かなと思います。情報の連携が大事です。

小学校のときにみなし不登校になった子ども、全く心配のなかった子ども、中間の子を分けて中学校になってどの時期から欠席が30日を超えたか。

小学校のときに1回でもみなし不登校に該当した子どもは、1学期の終わりぐらいに30日を超えている。小学校では全く不登校傾向にならなかった子どもは、2学期の半ばぐらいからで、ここから言えることは、この子どもたちはきっと勉強が分からなくなったのではないかということが推察されます。こちらは人間関係が原因ではないかということで、小学校のときに休みがちだった子が1日でも休んだらすぐにチームを組んでどのような対応がいいのか検討する。その際に本田委員や水岡委員が言われた専門家の意見も踏まえながらどう対応していくかを皆で協議していく。今はチーム学校がキーワードになっている。その流れの中で医療に繋いでいく、福祉に繋いでいくケースも十分考えられることから、小学校からの情報を踏まえて中学校で体制をしっかりと組んで対応していくことが初期対応の大きなポイントなのかなと改めて感じました。

それから、もう一つ適応指導教室について、愛媛県においてもサポートルームという学校の中に別室を設けて学校に来れなかった子、来づらい子を優先的に入れる取組を調

査研究として県内8校指定されて実施している。私のゼミ生もその中の1校に関わらせていただいております。

〈研究事業の概要について説明〉

(加藤市長)

ありがとうございました。それでは城戸先生の助言を受けまして教育長にまとめをお願いします。

(八木教育長)

私たちは、不登校の子どもも含めて東温市の子どもたちに全員に変化の激しいこの時代に生き抜く力を付けさせてやろうと見守っています。そのためには、学校、地域の中で子どもたちに役割を与え、そして褒めてやる。そうすることによって一人ひとりが受動的に社会に対応するだけではなく、持続可能な社会に貢献できる東温市に残ってくれる人材を育てたいと思っています。

本日皆さんがご意見を出していただきました小・中学校の人事交流とか教員の人事交流であるとか家庭は楽しいアンケートとかあるいは先生自信が元気な環境とか子どもに役割をといった様々なアイデアを貪欲に積極的に取り入れていきたいと思っています。

付け加えておきますと不登校になっても復帰する子どもも結構いるんです。本市は相談員とかスクールソーシャルワーカーなど色々な方がおられて他の市町以上に復帰する子どもも多いのが実情ですので、新規の不登校の子どもをつくらないように本日の先生のご指導を踏まえて取組を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

本日はありがとうございました。

(加藤市長)

ありがとうございました。

(加藤市長)

ありがとうございました。時間の関係もございますが、本日の不登校を中心とした二つの議題におきましてご意見を頂戴したところでございます。もしどなたかどうしてもというご意見がございましたらお一人だけご発言いただいたらと思いますがいかがでしょうか。特によろしいですか。

城戸先生には貴重なご講演、ご助言をいただきありがとうございました。厚く御礼申し上げます。不登校対策を進めるにあたりましては、先ほどご意見をいただきました点を踏まえまして教育委員会と今後も連携して子どもたちにとって良い学びの場の環境づくりを推進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

市（主催者側）の立場として、本日の会の中でも「児童生徒の最善の利益を最優先」この言葉が一つのキーワードと受け止めております。国におきましても子ども庁など様々な施策が進んでいくと思っておりますが、東温市におきましても適切に対応し、今申し上げました児童生徒の最善の利益を最優先に進めてまいりたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後にその他で事務局から何かありましたらお願いします。

(加藤市長)

それでは本日の会議はこれで終了したいと思います。委員の皆様には貴重なご意見を頂戴いたしまして有意義な協議ができましたことを重ねて御礼を申し上げます。

それでは、以上を持ちまして総合教育会議を示させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

(事務局長)

閉会を宣す。

(12 時 01 分閉会)